

第7次平取町総合計画（案）に係るパブリックコメント（意見募集）結果

「第7次平取町総合計画（案）」（以下「計画案」という。）の策定にあたり、パブリックコメント（意見募集）を実施したところ、1名から意見書の提出がありました。また、パブリックコメントの期間中、本町、貫気別、振内の3地区を巡回し、意見交換会を実施しました。意見交換会で出た意見につきましては、パブリックコメントの意見と同様の取扱いとさせていただきます。

このたび、意見の要旨および町の考え方をまとめましたので、お知らせします。

なお、総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画により構成されていますが、今回、パブリックコメントの対象としているのは、基本構想（案）と基本計画（案）となります。意見の内容には実施計画に及ぶものもございましたので、本意見については、次年度以降の、実施計画の進行管理（ローリング）の中で、協議・検討させていただきますので、予め、ご了承願います。

1. 意見書の提出について

（1）実施期間

令和8年1月22日（木）から令和8年2月3日（火）まで

（2）提出人数

1名（ファックスによる提出）

（3）意見数

5件（うち修正1件）

2. 意見交換会での意見について

（1）実施期間

令和8年1月22日（木）、1月29日（木）の2日間（本町地区・貫気別地区・振内地区の3地区を巡回）

（2）参加人数（延べ）

13名

（3）意見数

26件（うち修正1件）

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
1-1	<p>【意見書】 I 計画の策定にあたって 6 まちづくりの現状と課題 (8) 第6次・第7次 平取町総合計画 比較・変更点概要 P. 33 II 基本構想 2 平取町の将来像 P. 40</p>	<p>10年後の人口の減少は理解していますが、第6次と比較して、移住・定住の促進はあきらめて、関係人口へシフトし、人口減少しても持続できる等と、移住・定住活動に消極的な姿勢に感じられます。アンケートやワークショップでは、まだ、移住者増加を望む声が多いので、あきらめずに、そういう活動にも取り組む文言を入れて欲しいです。</p>	<p>本計画における「関係人口」の創出は、定住促進を諦めるものではなく、将来的な移住者を増やすための「段階的な戦略」として位置づけています。しかしながら、ご指摘のとおり、町民の皆様の「移住者を増やしてほしい」という願いは切実であり、町としてもその実現に向けて、空き家バンクの充実やマッチング機能の強化など、実効性のある施策を粘り強く展開してまいります。今回のご意見を受け、移住・定住施策への積極的な姿勢と、関係人口から定住へつなげる道筋が誤解なく伝わるよう、計画(案)の表現を見直します。</p>	有
1-2	<p>【意見書】 III 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P. 108</p>	<p>主要な取組、取組No.1、定住促進を頑張っていたきたいのですが、個別計画があまりないので、具体化して行って欲しいです。まちづくり課さんも色々な案件をかかえて忙しいので、別途、予算をつけるなどして、職員または地域おこしの人材等を入れていただき、力を入れて取り組んでいただきたいです。</p>	<p>ご指摘の通り、移住・定住促進には専門的に動ける人員が必要です。「地域おこし協力隊」等の力も借りて、移住相談やPRに注力できる体制を整える準備を進めていきます。今後、予算措置も含め、実行力のある体制づくりを目指します。</p>	無
1-3	<p>【意見書】 III 基本計画 第1編 教育・文化 第1章 学校教育 第2章 社会教育 P. 48~51</p>	<p>小中連携について、以前のように全町をまたがったのキャンプや小学校同士の交流事業の機会を増やして欲しい。予算もつけていただきたいです。</p>	<p>小規模校が増加する中、学校間の交流や合同行事は、子供たちの社会性を育む上で非常に重要であると認識しております。教育委員会では、毎年、町内小学校4・5年生を対象に「わくわく自然体験スクール」と題した1泊2日のキャンプを実施しています。今後も、学校間交流の機会拡充について、引き続き検討してまいります。</p>	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
1-4	<p>【意見書】</p> <p>Ⅲ 基本計画 第4編 産業 第3章 商工業 P.79～80 第4章 雇用・人材育成 P.81～82</p>	<p>店舗改装事業、空き店舗活用事業、起業化支援を利用しながら、空き店舗を使用して飲食店をやりたい、地域おこし協力隊の募集をしていただきたいです（空き店舗情報とセットで募集）。いこいの場の創出にもなります。</p>	<p>令和8年度に、商店街の活性化や地域住民の交流拠点を目的として、市街地の空き店舗を活用した「にぎわいレンタルスペース」の整備を検討しています。今後、地域おこし協力隊のミッションとして起業支援や店舗運営を組み込むことも有効な手段と考えますので、空き店舗情報とのマッチングも含め、前向きに検討します。</p>	無
1-5	<p>【意見書】</p> <p>Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108</p>	<p>あからさまな婚活パーティ等は敬遠されるかもしれませんが、町内と近隣の町の若者を集めて出会いの場になるようなBBQやツアー等の予算と企画があると良いかと思えます。</p>	<p>従来の形式的な婚活イベントよりも、自然な交流が生まれる場の必要性は認識しています。現在は、ワーキングホリデー等を通じた滞在交流を模索していますが、ご提案のような近隣市町村と連携した広域的なイベントや、体験型のツアーなども、若者が参加しやすい企画として今後の参考にさせていただきます。</p>	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-1	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第2編 保健・医療・福祉 第4章 障がい者福祉 P. 63～64</p>	<p>【農福連携・特別支援学校との連携について】 ・福祉施設の人手・入所者不足：「すずらん福祉園」等の施設で高齢化と定員割れが進み、存亡の危機にあります。 ・特別支援学校との連携：平取養護学校（特別支援学校）の生徒の多くは苫小牧など町外から来ています。彼らやその親に対し、振内地区に受け皿となる福祉施設があることをもっとアピールし、卒業後の就労・定住につなげてほしいです。</p>	<p>・連携の強化：特別支援学校の生徒数は増加傾向にあり、卒業後の就職先確保は課題と捉えています。町としてもグループホームの建設準備などを進めており、学校と連携して町内での受け入れ体制（就労・生活の場）を作っていきたいと思えます。</p>	無
2-2	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第3編 子ども・子育て支援 第2章 保育・幼児教育 P. 70～71 第1編 教育 第1章 学校教育 P. 48～49</p>	<p>【教育・保育環境の維持について】 ・施設の存続要望：振内地区の保育園や小学校、中学校がなくなると地域が衰退します。保育園留学などの取り組みを通じて、施設を維持し、移住者を呼び込んでほしいです。</p>	<p>・地域の核としての学校：学校や保育園は地域のコミュニティの核であり、維持することは定住対策としても極めて重要と考えています。関係人口を増やし、移住につなげる取り組み（保育園留学等も含め）を進めていきたいと思えます。</p>	無
2-3	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第3編 子ども・子育て支援 第2章 保育・幼児教育 P. 70～71</p>	<p>【子育て支援・遊び場について】 ・冬場の遊び場の整備：冬場や雨天時に子供が遊べる場所が少ない。日高町富川の「とみくる」のような、季節や天候に関わらず遊べる屋内施設が平取町にもあればよいと思えます。</p>	<p>・施設の必要性：「とみくる」のような施設は子育て世代だけでなく、多世代の交流拠点としても有効だと認識しています。既存施設の改修や新設を含め、どのような施設が良いか検討していきたいと思えます。</p>	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-4	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第4編 産業 第1章 農業 P.75～76</p>	<p>【農業・農地活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度変更への対応：令和9年（2027年）頃から水田活用の交付金制度や農地法が大きく変わるはずですが、その対策が計画に見えません。 ・企業参入と地域連携：むかわ町や町内の事例（旭のくれないファーム等）のように、企業が農地に参入してくる時代になります。単に場所を貸すだけでなく、地域とどう結びつけ、人口増に繋げるかの道筋を計画に盛り込むべきと思います。 ・遊休農地対策：親から引き継いだ農地を交付金で維持しているケースも多く、今後放棄地が増えることを懸念しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認識と方向性：水田から畑地化への流れや、交付金制度の変更は大きな課題と認識しています。地元の担い手だけでは維持が難しいため、外部からの企業参入や大規模化・集約化は避けられないと考えています。持続可能な第一次産業の発展に向け、対応していきます。 	無
2-5	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第5編 観光 第1章 観光基盤 第3章 観光プロモーション 第4章 観光体制 P.87</p>	<p>【アイヌ文化・観光客の受入について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道外へのPRの提案：本州に住んでいた経験から、道内の人よりも本州の方がアイヌ文化に興味を持ちやすいと感じます。道外へ向けた発信を強化すべきではないでしょうか。 ・受入環境の不備（実体験）：実際に二風谷地区に宿泊しようとした際、宿泊施設が少なく予約が取れなかったり、Wi-Fiがなく、多言語表記も少ないため、外国人観光客が困っている場面に遭遇しました。外国人をターゲットにするならば、Wi-Fiや案内表示などの環境整備にもっと力を入れるべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の関心向上と教育：アイヌ文化が教科書に載るようになり、学ぶ機会を作る必要があると認識している。一方で、町民が地元の博物館をあまり訪れていない実態もあるため、町民向けの無料開放などを通じて、地元の方にも関心を持ってもらえるようにしたいと思います。 ・受入態勢の課題：宿泊施設の不足や、Wi-Fi等の環境整備が必要であることは認識しています。多言語対応については、スタッフの配置のほか、翻訳アプリの活用なども含めて、ハードルを下げて受け入れられる体制を検討していきたいと思っています。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-6	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第5編 観光 第2章 観光資源 P.85</p>	<p>【観光・地域経済について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済効果の把握：アイヌ文化で観光客を呼ぶだけでなく、町内の飲食店（食堂等）に実際にお金が落ちているか、利用状況の調査を行っているでしょうか。 ・観光資源の多様化：アイヌ文化だけでなく、例えば二風谷ダムの堤体内地下通路（コンジット）の見学など、既存施設を観光資源として活用する可能性を探ってはどうか。 ・広域連携：平取町単独ではなく、日高町やむかわ町（恐竜発掘等）とスクラムを組んだ広域的な観光ルートが必要ではないかと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認識：ご指摘の通り、他町との広域連携や、既存資源の活用については可能性があり、重要な視点であると考えています。 	無
2-7	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第5編 観光 第2章 観光資源 P.85</p>	<p>【観光振興（馬の活用）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬を活用した観光の提案：近隣の静内地区のように、馬と一緒に記念写真を撮ったり、結婚式を挙げたりするような、馬を活用した観光ができないでしょうか。平取町にも馬がいるので良いアイデアだと思っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と可能性：現在、競馬の売上が好調であり、引退馬を繋養する「ヴェルサイユリゾートファーム」などが人気で、宿泊施設の建設も進んでいる。多くのファンが訪れており、ふるさと納税の返礼品としても人気があります。馬を活用した観光や写真撮影などは非常に大きな可能性があると考えており、今後検討していきたいと思えます。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-8	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第5編 観光 第2章 観光資源 P.85 第6編 ゼロカーボン・環境共生 第4章 景観・公園 P.93～94</p>	<p>【観光振興・ストーリー性・国立公園について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー性の構築：義経神社、二風谷アイヌ文化博物館、ファミリーランドなどの拠点がバラバラです。例えば「ペンリウク（平村ペンリウク）が義経神社の宝物を守った」という史実に基づき、和人文化とアイヌ文化をリンクさせたストーリーを作り、回遊性を高めるべきではないでしょうか。 ・日高山脈の眺望：日高山脈国立公園化に関連し、平取町内から幌尻岳などの山並みがきれいに見える場所（ビュースポット）が少ないので、眺望できるルートや場所を整備し、観光資源としてアピールしてほしいと思います。 ・施設の連携と稼働：ファミリーランドの宿泊施設などが十分に活用されていません。民間的な視点を入れて稼げる施設にし、他の観光拠点と連携させるべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携の強化：観光におけるストーリー性は重要であると考えています。 ・全体的な底上げ：観光協会とも連携し、点在する施設を線で結ぶようなルート作りや、町全体の観光の底上げを図りたいと思います。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-9	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第5編 観光 第4章 観光体制 P.87 第1編 教育 第1章 学校教育 P.48～49 第3編 子ども・子育て支援 第2章 保育・幼児教育 P.70～71</p>	<p>【産業・商業振興について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わいの創出と出店の機会：以前開催されていた「すずらん青空市」のようなイベントが楽しかった。(すずらん観賞会に行った際に)店舗が少ないため、キッチンカーや個人が出店できるような機会があれば、若い人や特技を持つ人が参加でき、町に活気が出ると思います。 ・新規就農者の定住と施設維持：振内地区のトマト農家は、今や半数以上が新規就農者(移住者)で支えられている。彼らがこの地で暮らし続けられるよう、地域の核となる保育園や小中学校をなくさないでほしいです。施設がなくなると、子育て世代が定住できなくなってしまう。 	<p>賑わいづくりへの認識：以前のような賑やかさを取り戻すことは必要だと考えています。また、キッチンカーの活用や、出店できる場の提供なども検討したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の核としての学校：新規就農者など若い世代が頑張れる場所作りは重要です。学校や保育園は地域コミュニティの核であり、維持することは定住対策としても極めて重要だと認識しています。 	無
2-10	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第6編 ゼロカーボン・環境共生 第1章 脱炭素・エネルギー P.89～90</p>	<p>【環境・エネルギー・森林資源について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンと森林管理：カーボンニュートラル(バイオマス発電等)に関連し、高齢化した人工林はCO2吸収率が低いため、若返らせる施策が必要ではないでしょうか。チップ工場や北電(北海道電力)との連携をどう図るかが重要だと思います。 ・提案について：沙流川・鶴川流域の豊かな自然環境の活用方法について、具体的にまとめて提案を提出したいが、受け付けてもらえるでしょうか。 ・ダムと地域の結びつき：国の直轄ダム(二風谷・平取)や事業所があり多くの職員がいますが、国なので固定資産税が入りません。地域との結びつきや経済効果をどう高めるかが課題だと思います。 ・北電との連携：電力需要が増える中で、北電との結びつきを深め、国全体の必要性という観点から財源や協力を求めていくべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案の受付：どのような方法であっても提案はしっかりと受け付けます。 ・現状認識：ご指摘の通り、国の直轄管理や北電管理のダム施設があります。地域との連携や、国・企業と組んだ財源確保の視点は重要と認識しています。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-11	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第6編 ゼロカーボン・環境共生 第1章 脱炭素・エネルギー P.89～90</p>	<p>【エネルギー・バイオマス・地域資源について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域材のエネルギー利用：町内には植林から70年経つカラマツなどの資源が豊富にあります。これらを公共施設（ふれあいセンター、支所、温泉「ゆから」等）の熱源や電力として活用する「木質バイオマス」の導入を検討すべきではないでしょうか。 ・地産地消の推進：重油ではなく、地域の木材（間伐材や廃材）をチップ化して燃料にし、地域内で経済とエネルギーを循環させる仕組みを真剣に考えてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンへの取り組み：森林資源の活用はゼロカーボン施策としても重要と認識しています。 ・施設への導入：公共施設の設備更新には多額の費用がかかるため長期的な視点が必要ですが、地域資源を活用する方向で検討を進めたいと思います。 	無
2-12	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第6編 ゼロカーボン・環境共生 第4章 景観・公園 P.93～94</p>	<p>【自然環境・森林教育・景観について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑の維持と継承：平取町は緑豊かな町だが、それをどう維持・継承するかが課題。子供たちに緑を理解してもらうため、「学校林」のような形で木を切ったり山に入ったりする体験（木育）の場を作るべきではないでしょうか。 ・修景林の整備：林業に関連し、景観を意識した「修景林」として整備し、散策路（遊歩道）を作るなど、自然と触れ合える環境づくりを計画に盛り込んでほしいです。 	<p>令和元年度から運用している森林環境譲与税を活用し、幼少期から担い手に至るまでの間、木のぬくもりに触れ、親しみ、体験する機会等を提供して参りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児：木製玩具等の贈呈 ・幼児：木育広場の提供 ・小中学生：木育教室（森林散策、森林施業の体験等） ・担い手候補：資格、修学、インターンシップ等への助成 <p>今後も、関係機関と連携協力し、子ども達の取り巻く環境の変化やまちの長所（自然や文化）を取り入れた事業を展開していきたいと考えています。</p>	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-13	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第2章 防災・減災 P.98～99</p>	<p>【防災対策（特に個別避難計画）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗への不満：国の努力義務である「個別避難計画」の策定が進んでいません。町内会として協力しようと数年前に書式案を出したり問い合わせたりしましたが、明確な回答や動きがありません。 ・情報開示の問題：町は「要支援者名簿（約800人）」を作成していますが、個人情報を理由に、誰がどんな支援を必要としているか（独居か、身体不自由か、薬の情報など）が町内会に詳細に開示されません。情報がないと、誰が誰を助けるかという具体的な計画が立てられません。 ・行政の体制：防災担当者が少なく（以前は2名）、入れ替わりもあり、体制が不十分ではないでしょうか。行政がもっと主導して動くべきだと思います。 ・避難所の備蓄・体制：過去の災害時、避難所に毛布の場所すらわからない状況がありました。ハード面・ソフト面の受け入れ態勢をしっかりと整えてほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の手順：全町で約800人の要支援者がおり、まずは民生児童委員に素案（誰が誰を助けるかの割り当て）を作ってもらい、その次の段階で自治会へ情報提供するという手順をとっています。 ・個人情報の壁：ケアマネージャーが把握しているような詳細な個人情報（服薬管理やキーパーソン等）を、本人の同意なしに全て町内会へ開示することはできません。 ・計画作成の方法：町内会で「誰が誰を助けるか」の同意が取れれば、すぐに計画作成は可能。町内会で対応困難な重度の方については、行政と一緒に考えるというスタンスです。 ・今後の対応：防災担当者の不足や、町内会との連携に齟齬があったという事実は分かりました。担当部署と協議する場を設け、具体的な進め方や支援体制について改めてしっかり対応したいと思います。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-14	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第2章 防災・減災 P. 98～99</p>	<p>【防災・災害時の対応について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の情報伝達と避難：津波や地震の際、行政からの確な指示が出せる体制を整えてほしいです。 ・要支援者の把握と共助：高齢化が進み、地域のつながりが希薄になる中、移住者には誰がどこに住んでいるかわかりません。災害時に助け合うため、独居老人等の情報を共有する仕組みがほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達手段：Jアラートに加え、町の「緊急防災メール」への登録を推進しています。国からは情報伝達の複線化を求められており検討を進めます。 ・要支援者名簿と個人情報：国の指針に基づき「要支援者名簿」を作成していますが、支援が必要な人（約800人）に対し、支援できる人が不足しているのが実情です。個人情報の壁はありますが、自治会や民生委員と連携し、同意を得た上で名簿を共有し、誰が誰を助けるかという「紐づけ」作業を進めています。地域（自治会等）からのボトムアップで、お互いに顔の見える関係作りをお願いしたいと思います。 	無
2-15	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第4章 道路・交通 P. 102～103</p>	<p>【公共交通（バス）・移動手段について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの小型化の提案：大きなバスに人がほとんど乗っていない状況を見ます。小さいバスにするなど効率化できないのでしょうか。 ・中高生の移動手段：中高生が地元に戻りたがらない理由の一つに「足がない（自由がない）」ことがあると思います。親に頼らざるを得ない状況を変えるため、他都市のコミュニティバス（くるりんバス等）のように、中高生が安価で気軽に利用できる移動手段があればよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス事業の現状：バス事業者によると、様々なサイズのバスを配置・維持するのはコストや運用の面で難しいとの話があります。しかし、乗車率は低下しており、多額の赤字補填を行っている現状もありますので、将来的にはデマンド交通や小型車両への転換など、路線のあり方を含めて検討が必要な時期に来ています。 ・若者の移動支援：中高生の移動の自由度は重要であり、頂いた意見を含め、今後の交通体系の中で検討していきたいと思います。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-16	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第4章 道路・交通 P.102～103</p>	<p>【除雪支援について】 ・高齢者宅の除雪：高齢で除雪が困難な世帯が増えています。近所での助け合いも限界があり、有償でも良いので除雪してくれる仕組みや人が欲しいです。</p>	<p>・公助と共助の連携：現在、除雪マニュアルを見直し、町道の除雪基準などを整理しています。玄関先などの私有地の除雪については、建設水道課の枠を超え、社会福祉協議会やボランティア、地域おこし協力隊などとも連携し、有償ボランティア等の仕組みづくりを検討していく必要があると認識しています。</p>	無
2-17	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108</p>	<p>【若者・住民の居場所づくりと空き家・空き店舗活用について】 ・居場所の不足：若者や子育て世代（ママたち）が休日や冬場に集まれる場所が町内にありません。町外に出て消費活動をしてしまうのが勿体ないと思います。 ・空き店舗の活用：振内地区には、旧営林署の倉庫や旧信金など、活用できそうな魅力的な空き物件が多くあります。これらを安く借りて、若者がカフェやお店、交流の場として活用できないでしょうか。 ・初期投資の壁：自分たちでリフォームしたり、光熱費を払ったりするのは金銭的なハードルが高いです。町が建物を買収する、あるいは家賃補助をするなどの協力があれば、やる気のある若者はいると思います。 ・本町での事例について質問：本町地区で予定されている「賑わいレンタルスペース」の家賃や光熱費の仕組み、誰でも利用できるのかについて教えてください。</p>	<p>・現状認識：市街地に賑わいが少ないことは課題と認識しています。 ・本町でのモデル事業：来年度、本町市街地の空き店舗（寄付を受けた物件）を活用し、「賑わいレンタルスペース」事業を検討しています。 ・仕組み：建物は町が所有し、リノベーション（簡易厨房の設置など）を行います。管理は「空き家コーディネーター」が常駐して行う予定としています。 ・利用形態：地域住民が習い事や軽食提供、高校生の居場所やシャッターアートイベントなども想定しています。 ・振内地区への展開：本町でのモデルケースが成功すれば、振内や貫気別など他地区への展開も検討したいと思います。 ・具体的物件について：旧信金については、住宅部分との兼ね合いはありますが、検討可能な場所だと思っています。 ・支援制度：空き家改修助成、起業化支援などの既存制度も活用していただければと思います。制度に当てはまらない場合は相談に乗ります。</p>	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-18	【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108	【女性の視点・関係人口の創出について】 ・女性の声を聞く場の設置：女性の流出を防ぐため、女性限定の意見交換会や話し合いの場を定期的に設けてほしいです（広報等で公募するなど）。 ・外部視点の導入：町内の人だけでなく、ターゲットとなる層（例：リッチ層など）の意見を取り入れないと、ピントのずれた施策になるのではないのでしょうか。	・重要性の認識：第2期地方創生において「移住・定住」だけでなく「関係人口」の創出へ方針転換しています。特に、若者・女性の流出（Uターン率の低さ）は顕著で、出生数減少の悪循環にも繋がっていますので、女性・若者の関係人口創出は最重要課題の一つと認識しています。 ・意見の反映：女性のみ意見聴取などはまだ不十分な面がありますので、当事者の意見を伺う場や施策を検討していきます。	無
2-19	【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108	【婚活支援・出会いの場の創出について】 ・婚活パーティの復活要望：以前行われていたような婚活イベントができないでしょうか。一次産業の後継者不足にも直結する問題で、独身者が多い。 ・広域連携の提案：町単独が難しければ、近隣市町村と連携して企画できないでしょうか。	・過去の経緯と方針：以前は農業委員会中心に行っていましたが、成婚に至る成果がみられませんでした。現在は「イベントで出会う」形式よりも、トマト栽培のアルバイトやワーキングホリデーなどで町に滞在してもらい、自然な交流の中で定住や結婚に繋がるような形（関係人口からの移行）を模索しています。	無
2-20	【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108	【移住体験住宅（お試し暮らし）の運用について】 ・本来の目的で使えていない：「山村留学」などを検討して問い合わせが来ても、住宅不足から移住検討者が借りられない状況があります。 ・機会損失：実際に住んでみたい人が泊まれる場所がないため、移住のチャンスを逃しています。	・今後の対策：令和9年度に平取高校の寮が新設される予定です。それに伴い、空きとなる「旧寮」をシェアハウスや、ワーキングホリデー、長期滞在体験の拠点として活用することを検討しています（リノベーション等を計画）。	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-21	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第7編 安全・安心なまちづくり 第7章 住環境・住宅 P.107～108</p>	<p>【移住・定住相談の窓口（コンシェルジュ）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口の不明確さ：移住や起業を相談したくても、役場のどこに行けばいいかわからず、たらい回しになる懸念があります。 ・ワンストップ窓口の要望：条件整備や空き家のマッチングを含め、包括的に相談に乗ってくれる担当者（コンシェルジュ）や明確な窓口を設置してほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体制の強化：縦割り行政の弊害を認識しています。4月からは「地域おこし協力隊」等の力も借りて、PRや移住相談の専門的な対応ができる体制を整えたいと思います。ホームページの情報更新も含め、情報発信と窓口の明確化を進めていきます。 	無
2-22	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第8編 協働・参画のまちづくり 第1章 住民協働・コミュニティ P.111～112</p>	<p>【計画の進め方・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数について：本日の参加者が3名と少ない。地域説明会は重要なので、もっと人が集まるような手配や周知が必要ではないでしょうか。 ・実施計画の提示時期：具体的に「いつ・何をやるか」が見える、実施計画（年次計画）はいつ示されるのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知について：パブリックコメント等を通じて意見を集約していきます。 ・実施計画について：前期5カ年の実施計画については、予算編成等の兼ね合いもあり、おそらく3月の自治会説明会の際には、お示しできると思います。 	無
2-23	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第8編 協働・参画のまちづくり 第1章 住民協働・コミュニティ P.111～112</p>	<p>【計画の周知・広報について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書の設置場所：「総合計画」という名称や分厚い冊子は敷居が高く、一般住民にはなかなか読まれないと思います。人が集まる場所（食堂、理容室、美容室など）に置き、待ち時間に目を通してもらえるような工夫をしてはどうでしょうか。 ・見せる工夫：住民に知ってもらうためには、内容を見てもらうための仕掛けや工夫（見せる努力）が必要ではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた意見を参考に、より多くの住民に見てもらえるような周知方法や設置場所について検討したいと思います。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-24	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第8編 協働・参画のまちづくり 第4章 行財政運営 P.115～116</p>	<p>【地域おこし協力隊・人材活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力隊の独自性：地域おこし協力隊員が、役場の色に染まりすぎてしまい、本来期待される「外部の視点」や「新しい風」が活かされていないのではないのでしょうか。彼らの個性を消さないような受け入れ方が必要だと思います。 ・定住への支援：任期（3年）終了後も定着してもらうためには、彼らが自立して稼げるような支援や、地域住民・企業とのマッチングをもっと丁寧に行うべきではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への評価：3年間という期間は短いですが、その中で地域に馴染み、定住してもらえるよう支援しています。 ・視点の活用：彼らの持つ「よそ者視点」は貴重であり、役場としても彼らの提案や活動を尊重し、地域への定着に向けたサポートを継続してまいります。 	無
2-25	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第8編 協働・参画のまちづくり 第4章 行財政運営 P.115～116 第7編 安全・安心なまちづくり 第4章 道路・交通 第5章 水道・生活排水・河川 P.102～105</p>	<p>【行政運営・インフラについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り行政の打破：公園整備（建設課）と観光利用（観光商工課）など、役場内の課が縦割りになっており連携不足を感じます。部署を超えた横の連携をしてほしいです。 ・過疎地域の維持：旭、芽生、仁世宇などの集落では高齢化と人口減少が進んでいます。除雪などの生活維持が困難であり、対策が必要だと思います。 ・水道料金の負担：道内の他地域と比較して、高水準であると聞き及んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内連携の強化：ご指摘の通り、縦割りの弊害をなくし、総合的な町づくりができるよう庁内の連携を強化してまいります。 ・遠隔集落における生活基盤の維持：遠隔地の集落における高齢化やインフラ維持費用の増大は、ご指摘のとおり深刻な課題であると認識しております。今後も、既存の集落機能の維持に努めながら、地域の実情を踏まえた生活支援のあり方について検討を重ねてまいります。 ・水道料金について：水道料金が全道・全国的に見ても高額であることは認識していますが、広大な面積への配水管維持や施設更新等のコストがかかるため、料金引き下げは困難な状況です。企業会計化により経営の透明化を図りつつ、安全な水の供給に努めるのでご理解ください。 	無

No.	該当箇所	意見内容	町の考え方	計画修正
2-26	<p>【意見交換会】 Ⅲ 基本計画 第8編 協働・参画のまちづくり 第5章 行政サービス・DX P.117～118</p>	<p>【情報発信（DX・SNS）等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語の解説：資料（計画P.117 第5章 行政サービス・DX）にある「DX」や「RPA」などの専門用語は、注釈をつけるなど分かりやすくしてほしいです。 ・SNSの活用：行政のSNS発信が堅苦しく、拡散されにくいと感じます。もっと親しみやすく、拡散しなくなるような発信内容やタグ付けなどを工夫すべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注釈の追加：ご指摘いただいた通り、専門用語には、注釈をつけて分かりやすいようにします。 ・発信方法の改善：行政の発信はどうしても堅くなりがちですが、SNSの活用は重要です。広報担当や地域おこし協力隊とも連携し、より効果的で親しみやすい情報発信の方法を検討・工夫してまいります。 	有